

令和7年12月10日

(2025年)

保護者の皆様

吹田市立千里第二小学校

校長 郷 文子

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、7月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表します。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科(3年に一度)に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査内容・目的

- ◆教科に関する調査 国語・算数・理科に関する調査
- ◆生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査
- ◆児童の学力や学習の状況・課題などを把握し、6年生やほかの学年の児童への学習指導の改善・充実などに取り組む際に役立てることにあります。

2. 調査結果の概要と課題

(1)調査結果の概要

国語 全国値を上回っている

算数 全国値を上回っている

理科 全国値を上回っている

(2)各領域における成果と課題 (○できた点 ●課題となる点)

国語科

○漢字を文の中で正しく使うことができました。

○文章の構成意図を問う選択問題や短答式問題では、比較的高い正答率でした。

●記述力と情報統合能力に課題――複数の情報を読み解き、目的や意図に応じて詳しく文章を書くことに課題がみられました。

算数科

○数と計算領域は比較的高い正答率でした。

○選択式の問題は比較的高い正答率でした。

●数式を言葉を用いて説明することに課題がみられました。

理科

- 課題を解決するための実験方法を発想する際、制御すべき要因(条件)と制御しない要因(条件)を区別して考えること(条件制御)を適切に行えました。
- 1つの実験結果から、そこで獲得した知識を基に、続く課題に対して科学的な根拠ある予想をすることができました。
- 既習の知識とは異なる実験結果が示された際、そこで、新たな問題を見いだしていくことに課題がみられました。

《今後の取り組み》

国語科

- ◆複数の資料について、互いの結びつきを意識しながら読む学習をします。
それぞれの資料にある語句や情報を丸や四角で囲んだり、線をつないだりして、関連性を視覚的に明らかにしながら読む指導が効果的です。そして、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが大切です。
- ◆伝えたい内容が伝わる文章になっているか考え、文章を整える学習が効果的です。そのため、文章を書いた後に読み手の立場に立って読み直して、文章を整えるという学習を取り入れていきます。

算数科

- ◆本年度は、「五角形の面積の求め方」を記述する問題が出ました。公式が示されており、答えを求めるときに公式を使える力だけでなく、今まで学習した知識を活用して必要な情報を自ら選びだし筋道を立てて説明することが求められました。「概念としての知識の習得や深い意味理解をすること」を大切にされた指導を心がけます。
- ◆計算の意味や仕方を理解し、説明することができ、必要な場面で使えるようにすることが算数科の目指す「数学的に考える資質能力の育成」につながります。
- ◆小学校算数で、基本的概念(分数・割合など)の理解定着を図り、協働的な学びを価値づけて、児童どうし話すことで、論理的な思考を身につけ深める指導を心がけます。

理科

- ◆複数の自然の事物・現象を比較し、その差異点や共通点を基に新たな問題を見いだして表現することが大切です。そのため、日頃の学習活動では、既習の知識をふり返りつつも、その知識だけにとらわれることなく、目の前の実験結果を大切にして、新たな問題を見いだしていく思考の習慣を身につけていけるよう取り組んでいきます。
- ◆知識の習得の際には、自然の事物・現象とその知識を関連付けたり、他の知識とを相互に関連付けたりして、より概念的な理解へと深められるよう取り組んでいきます。

3. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析

- 「自分には、よいところがあると思いますか」について、全国・大阪府の平均値よりも大きく上回っていました。「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」についても、『よくある』と回答した児童が大きく上回っていました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても平均値を上回っており、自己肯定感を上げる機会が学校内外で保障されていることがわかります。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、『当てはまる』が、全国・大阪府の平均値よりも大きく上回り、「友達関係に満足していますか」についても、上回っていることから、行事や学習を行う上で交友関係を築き上げながら充実した学校生活を送っていることがわかります。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、『当てはまる』と答えた児童が大きく上回りました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についても、やや上回り、これまで継続的に行ってきた「いじめ予防授業」が定着し、教職員が見守っているという安心感が児童に生まれています。今後も、継続し声掛けも行っていきます。
- 「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」など、課題解決に向けて問題に取り組み達成しようとするなどの多くの項目について、『当てはまる』が、全国・大阪府の平均値よりも大きく上回り、本校の教育目標や研究主題に教職員が一丸となって児童とともに取り組んできた成果が表れてきています。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしたてみたいと思いますか」については、全国・大阪府の平均値を下回り、自分の良さを生かして、他者や地域・社会に貢献する喜びに気づけていないと考えられます。今後は行事や学習を通して相手や社会との関わりを深める中で喜びを感じられるような活動を増やしていきます。
- 「国語の勉強は好きですか」「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」については、『どちらかといえば、当てはまる』が、全国・大阪府の平均値よりもやや下回っています。子どもの良さを認めながら、さらに子どもたちの向上が実感できるように、また学習が楽しい、充実していると感じる児童が増えていくように、学校全体でさらなる授業力向上に努めます。
- 「今回の国語や算数の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」については、『全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した』については全国・大阪府の平均値よりもやや下回ったものの、『書く問題で回答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった』については、全国・大阪府の平均値よりも大きく下回り、最後まで諦めず、粘り強く問題を解こうとしたことがうかがえます。今後も、行事や学校生活を通して、粘り強く課題に取り組むことを通して、児童に達成感を持たせていきます。

学校教育目標 豊かな心を持ち、たくましく生きる力を身につけ、主体的に行動する子どもの育成
—自主協同—

教育目標 主体的に学びに向かう力を育む学校
豊かな心とコミュニケーション能力を育む学校

研究主題 主体的・協働的な学び ～思考を深め、伝え合う力～

を目標に 3つの観点から取組を進めています。

- ① **課題を見つける** 自分たちの地域や環境、情報などからどうして、なぜ、そのようになっているかなど、様々な事柄に興味を持って課題を見つけていく力をつけていきます。
- ② **追求** 一人ひとりが調べ、新しい情報を見つけていく中で意欲を持って追及していこうとする姿勢を持つように進めます。
- ③ **協働する** 他の意見との交流の中で、自分の考えにこだわりを持ちながらもほかの意見にも積極的に関心を持ち、その中でより高い考えに向かおうとする態度を育てていきます。

今後も引き続き研究を推進し、子どもたちに課題に対応できるよりよい力をつけていきたいと考えます。生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析では、自己肯定感の高さや子どもの生活習慣に対する項目から各ご家庭でのサポートや意識の高さが伺えました。その思いに寄り添い、学校でも子どもたちの人権を尊重し、主体的に行動できるよう大切に育んでいきたいと考えます。

本調査からも見えてくるように、ご家庭と学校と地域で協力しながら連携を図ることは子どもの成長にとってとても大切な要素です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしく願いいたします。